

群馬県みなかみ町上組区での 実証調査(地域管理構想)の取組概要

- R7年4月より、群馬県みなかみ町上組区において地域管理構想の実証調査を開始。
- R7年度内は、住民ワークショップなどの開催により地域との話し合いを実施。R8年度に地域管理構想策定を目指す。

■対象地域：群馬県みなかみ町^{うわぐみ}上組区

■地区概要

- ・位置：みなかみ町南部に位置し、上越新幹線上毛高原駅を中心に南北に3km、東西に1.5kmの範囲。隣接する利根沼田地域、吾妻地域、渋川市の玄関口となっている。
- ・人口等：人口500人、195世帯、高齢化率36.6%、若年人口率9.2%^(R7.3末)
- ・地形：利根川右岸の河岸段丘に集落を形成。標高は540m程度。

■検討体制

- ・中心組織：住民組織（上組区）、みなかみ町、オープンハウスグループ、東京大学大学院工学系研究科、群馬銀行
- ・オブザーバー：関係団体、関連企業（交通系事業者等）



検討エリア



【実証調査の応募に至った経緯】

- ・上越新幹線沿線に約60haの農地があるが、耕作者の高齢化や後継者不足、離農が進み荒廃化が急速に進行。また、新幹線駅近くの防災重点ため池も維持管理が厳しく、重要インフラの存続が危ぶまれる状況。
- ・景観の悪化や防犯対策などへの懸念があることや、優先的に維持したい土地の明確化等も考えたいとして、令和7年2月、公民学連携の話し合いの場を求める要望書を町に提出。
- ・「地域全体で話し合う場」を設け、地域資源や利用状況の把握、分析、評価を行い、駅周辺の新たな土地利用や地域の担い手の発掘も含めた地域管理構想の策定を目指すこととした。

- 策定作業においては、上組区が抱える課題への対応策の具体化を念頭に検討を進めている。
- 特に、同時期に並行して進めている上毛高原駅周辺のまちづくりの検討との連携を図るため、地域での話し合いにおいては、**土地の適正管理の視点に加え、土地の有効活用などの幅広い視点を含めて検討している。**

【策定に向けた検討課題】

■全体

- ・歴史的・地理的特性、住民の繋がり等を踏まえた地域の魅力の整理
- ・ユネスコエコパークやSDGs未来都市など自然と人との共生を根幹に据えたまちづくり
- ・当該地域が今後も存続し続けるために、何が必要で、どのような人材が必要か（地域住民・企業を含めた共通認識を探る）

■農地・ため池

- ・営農意欲等を踏まえた今後のあり方・活用方法
- ・サワガニ、クロゲンゴロウなどの絶滅危惧種への配慮等ネイチャーポジティブの観点を取り入れた管理

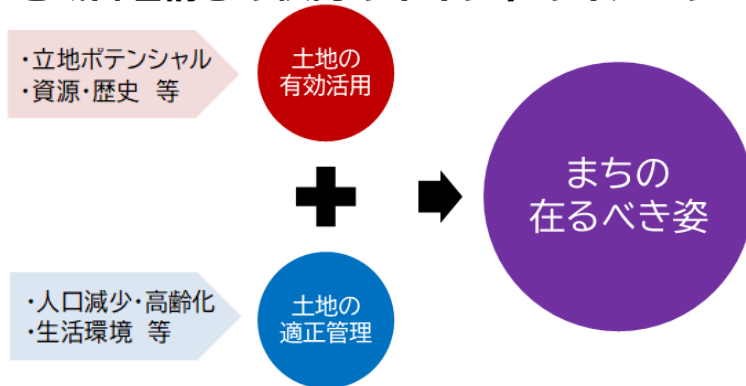
■耕作放棄地・山林

- ・針葉樹から広葉樹への転換による水源涵養機能の回復
- ・土砂災害への対策

■活性化

- ・上毛高原駅周辺のまちづくりの推進

■地域管理構想の検討のポイントのイメージ



検討エリア周辺の活動



(上) かいぼり活動によるため池の外来種駆除（アメリカザリガニ、オオクチバスなど）



(下) 耕作放棄地を活用した湿地環境再生

- 地域管理構想の策定に向けては、地域住民との話し合いの場である「うわぐみらいワークショップ」を中心に話し合いを進めている。
- 本取組と並行して進めている「上毛高原駅周辺のまちづくり」と連携が図れるよう、相互で実施する意向把握活動の結果の共有などを行った。

【地域管理構想（実証調査）の取組の経過】

- ・ R7.4月 ● 地域管理構想の実証調査開始
- ・ R7.6月～ ● 現地調査及び地域との意見交換
- ・ R7.12月 ● 第1回うわぐみらいワークショップ
- ・ R8.2月 ● 第2回うわぐみらいワークショップ
- ・ R8.3月 ● 第3回うわぐみらいワークショップ

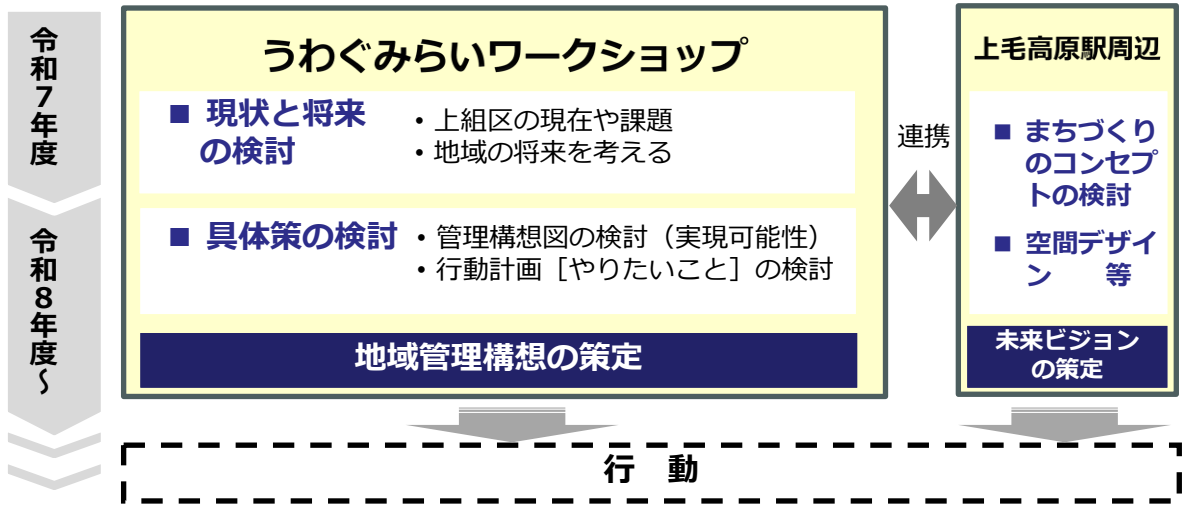
【上毛高原駅周辺での取組】

- ・ R7.6月 ● UDC準備室発足（任意団体）
- ・ R7.8月 ● 上毛高原駅周辺アンケート
- ・ R7.9月 ● 地域住民ワークショップ
- ・ R7.11月 ● 拠点施設の開所
- ・ R7.12月 ● 勉強会（計3回）
- ～ R8.2月 ● 開催

情報共有



■ うわぐみらいワークショップの検討フロー



【参考】上毛高原駅周辺のまちづくり

町は、上毛高原駅周辺のまちづくりの推進を目指し、産官学金の連携を土台としたUDCみなかみ準備室（以下、「UDC準備室」という）を設立し、R7年は地域住民とのワークショップ、勉強会等の活動を進めている。



出典：UDCみなかみ準備室通信No.1 3

第1回うわぐみらいワークショップ

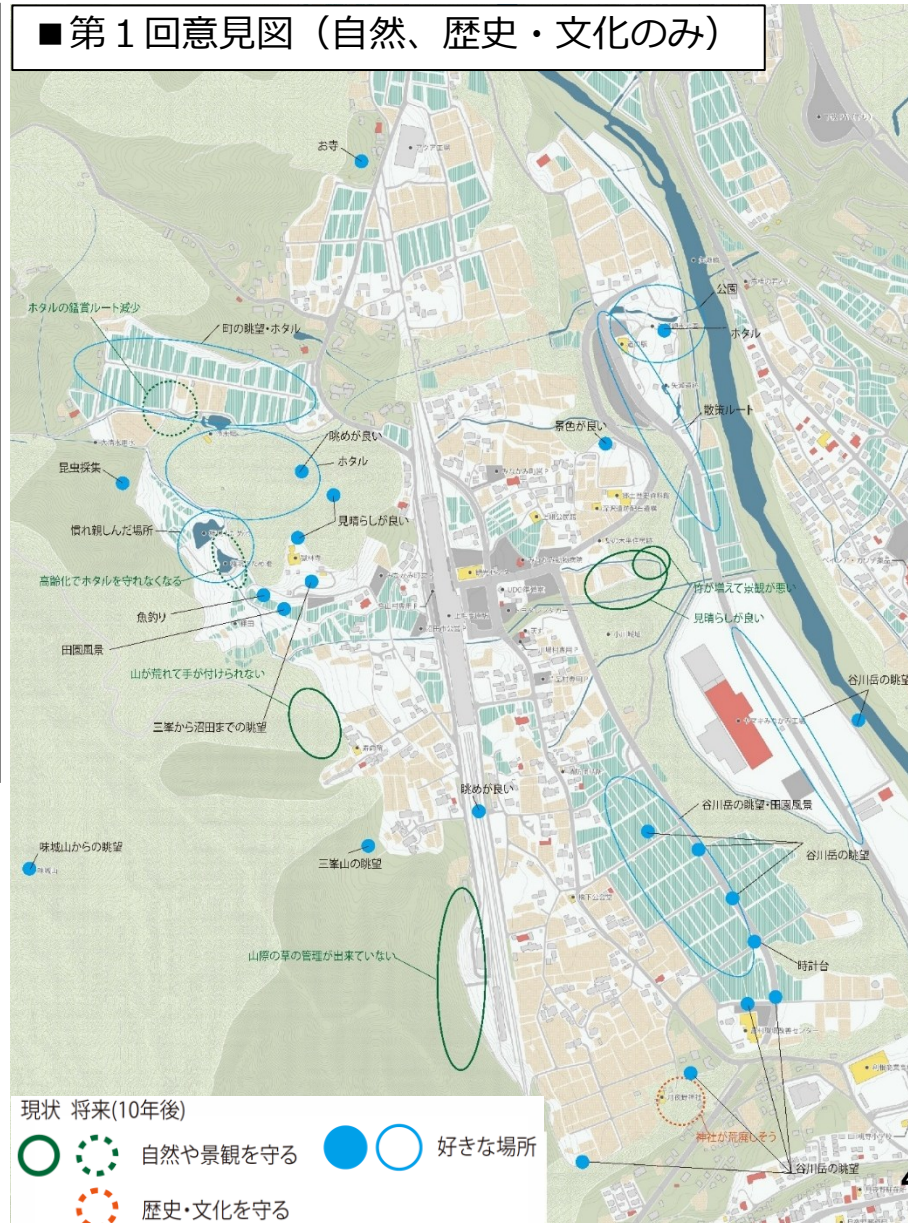
令和7年12月23日 参加者：住民等32名、UDC準備室メンバー4名

地域の土地の管理の課題と将来を考える

- 参加者の居住地別に分かれ、家の周りを中心に話し合い、お互いの関心ごとを共有した。
- 上組区の好きなところは「見晴らしのよさ」等。
- 現状や将来に向けて気になることとして「自然」「歴史・文化」「農業」「暮らしやすさ」「上組区の活力」「駅前としての活力と魅力」「その他」の7つのテーマに関する意見が挙げられた。



■ 第1回意見図 (自然、歴史・文化のみ)



■ 第1回の意見の整理 (一部抜粋)

- 1) 自然や景観を守る
- 2) 歴史・文化を守る

○眺望が良い

高台からの眺めが良い、絶景
谷川岳等の山々が良く見える

○身近な風景が良い

田園風景、緑、ホタル、きれいな水

●自然を守れない

山が荒れている、山際の草の管理ができていない

☆10年後の将来

ホタルのある環境が守れない

☆10年後の将来

史跡、神社が荒廃しそう

第2回うわぐみらいワークショップ

令和8年2月4日 (参加者: 住民等21名、UDC準備室メンバー4名)

守ったり、利活用できると良い場所の検討

- 第1回の意見をもとに整理した7つのテーマごとに参加者自身が考える「守りたい、利活用したい場所 (want)」を聴取。
- 守りたい場所は「ホテルの生息地」「史跡・神社」「まとまった農地」等、利活用したい場所は「駅前」「既存の住宅地」等が出された。

第2回の意見の整理結果 (一部抜粋)

○自然

守りたい場所

- ホテルの生息地
- ・沢ホテル
- ・ため池とその周辺の農地等
- ・ホテルの里
- 今の景観
- ・水田の広がる景観

利活用したい場所

- ホテルの里
- ・草ボーボーなので何とかしたい

○歴史・文化

守りたい場所

- 史跡・神社
- ・小川城址、矢瀬遺跡、月夜野神社、真田用水群、福守様
- お祭り
- ・初午祭と稲荷祭(小川城址)
- ・太々神楽、うらやすの舞
- 民俗
- ・庚申塔や道祖神などの民俗信仰

利活用したい場所

- 史跡
- ・郷土歴史資料館、深沢配石遺跡をPR
- 古民家
- ・移住者用住宅

第2回意見図 (自然、歴史・文化のみ)



第3回うわぐみらいワークショップ 令和8年3月3日 参加者：住民等25名、UDC準備室メンバー2名

令和7年度の結果の共有

- 第1、2回の意見振り返り、「好きな場所」「10年後の将来」「守りたい、利活用したい場所(want)」について意見が反映されているかを確認。
- 守りたい場所等について追加の意見が出されたり、土地管理の状況について住民の間で受け止め方に違いがある場所を再認識できた。



■ 第3回意見図 (自然、歴史・文化のみ)



■ 第3回の意見の整理結果 (一部抜粋)

○自然 (緑マーカー部分が第3回で追加された意見)

自然や景観を守る

現状

- 眺望が良い
 - 高台からの眺めが良い、絶景
 - 谷川岳等の山々が良く見える
- 身近な風景が良い
 - 田園風景、緑、ホテル、きれいな水
- 自然を守れない
 - 山が荒れている、山際の草の管理ができていない

守りたい場所

- ホテルの生息地
 - ・沢ホテル
 - ・ため池とその周辺の田んぼ等の農地と水
 - ホテル生息地周辺の森林(上記の維持の為)
- 今の景観
 - ・水田の広がる景観
 - 農地周辺の景観
 - 季節ごとの谷川岳が見られる場所

利活用したい場所

- 駅前
- ホテルの事前学習ができる施設の設置

皆さんの意見のまとめ

ホテルを大切な資産と考えている。
ホテルの生息地を守り、活用するために、保存活動やホテル生息地付近の田んぼや森林等の環境を維持したい。
今ある景観は維持したい。

景観は大事だが、圃場整備した条件の良い場所の農地転用による活用も検討すべき

【凡例】

- 自然や景観を守る
- 歴史・文化を守る

○地域管理構想の検討項目のうち、「地域の現状と将来予測」「地域全体の土地利用の方向性」「管理構想図（Wantの視点まで）」のもとになる住民意見を整理した。

■上組区で「守りたい場所・活用したい場所」に関する意見（管理構想図（Wantの視点））



頂いた意見のとりまとめのイメージ

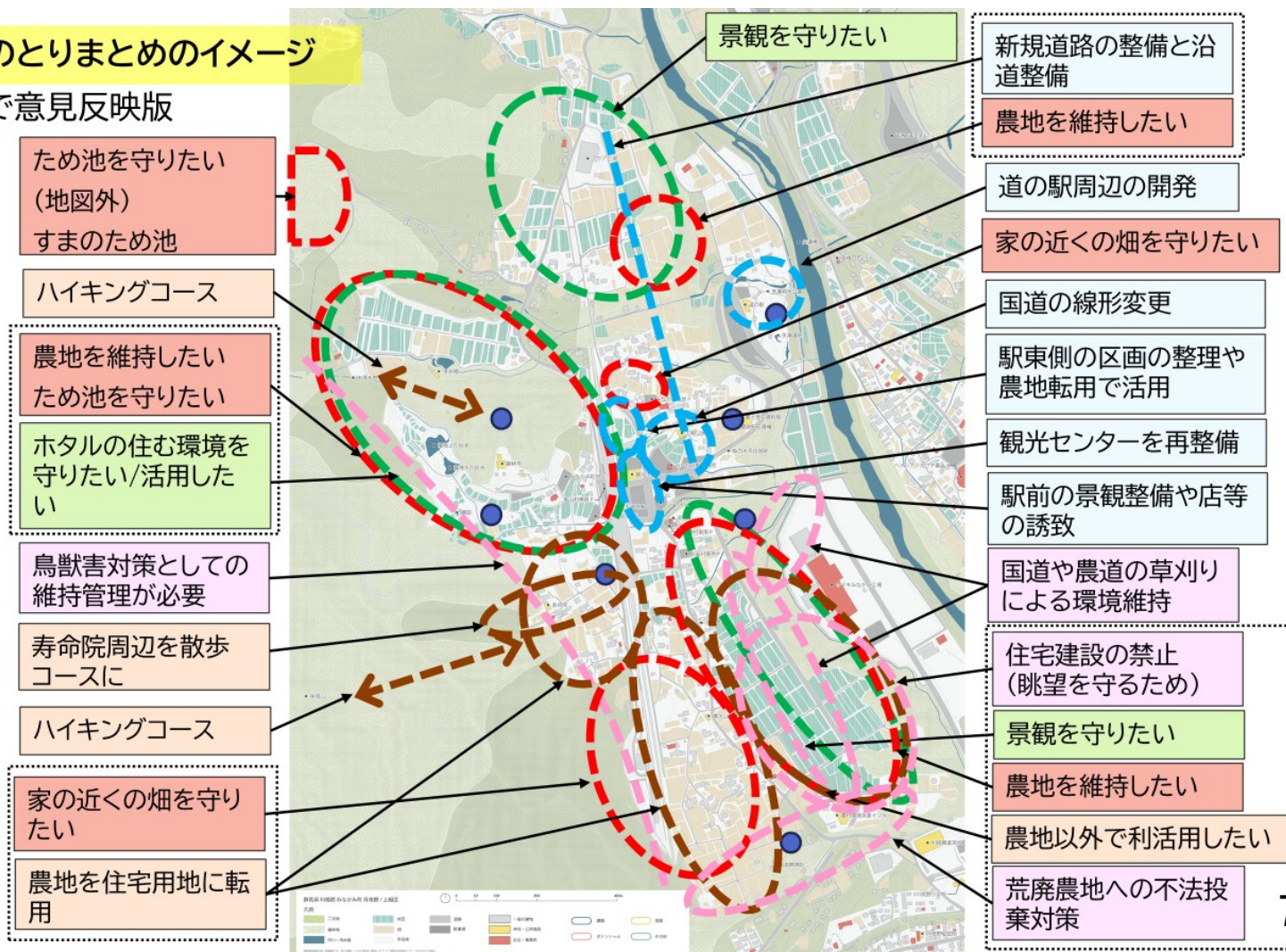
注)第3回まで意見反映版

<守りたい場所>

- 自然・景観を守る
- 歴史・文化を守る
- 農地を守る
- 暮らしやすさを守る

<利活用したい場所>

- 上組区の活力を生み出す
- 駅前としての活力と魅力を生み出す



➤ ワークショップに参加された住民の方の声

- ワークショップを通じて地域の方同士の思いが共有され、住民同士の連帯感や地域へ思いが高められた。
- 一方で、将来への不安を改めて感じた方や計画の実現性に不安を持つ方もいた。

■ 共通認識化

- ・ 同じ地域の方々と課題の共有が出来た。同じような考えの方が居てよかった。
- ・ 顔は知っていても普段話さない人たちと話げできた。
- ・ 広い世代で上組区を心配していることが感じられた。

■ 連帯感の高まり

- ・ 転入者なども参加してくれたし、上組は良い所と見ていただき嬉しかった。この地区のことを真剣に考えているのを感じた。
- ・ 仲間が増えたと感じた。

■ 地域への関心の高まり

- ・ 地元に住んでいるのに思ったより何も知らなかった。色々知りたい調べたい気持ちになった。
- ・ 上組のことを良く知らない私でも新たな良さを知ることができた。

■ 今後の話し合いに対する期待と不安

- ・ もっと若い人たちにも参加してもらいたい。親子でも移住者でも。
- ・ ワークショップのような意見交換をすることの大切さや、取組み、情報提供が必要だと思った。
- ・ ワークショップを続けることで意見の幅が広がることを期待。
- ・ 改めてこの先が不安になった。実現可能なプランになるか。



➤ 今後の展開

- 令和8年度末の地域管理構想の策定に向け、ワークショップに主体的に関わる区の組織体を新たに創設。
- 令和7年度に醸成された機運を大切にしながらも、特定のテーマに絞って集中的に話し合うなど、実現可能性（Can）等の面から土地の使い方や行動計画などの内容を精査していく。